

**熊本県立熊本北高等学校 令和6年度（2024年度）学校評価表**

1 学校教育目標						
人間教育に主眼をおき、知・徳・体の調和のとれた全人教育を実践し、将来社会において自身と誇りをもって生きていく有為な人材を育成する。 特に教師と生徒および生徒相互の人的な触れ合いを大切に、主体性を育む教育活動を通して、「礼節と品位を重んじ、向上心に満ちた意欲的若人」の育成に努める。						
2 本年度の重点目標						
1 全校体制によるSSH活動の推進 2 主体性を育む授業の充実 3 キャリア教育と進路指導の充実(グローバル化) 4 生徒指導・特別支援教育の充実 5 保護者や地域に開かれた学校づくり 6 働き方改革の推進						
3 自己評価総括表						
評価項目		評価の観点	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
大項目	小項目					
学校経営	特色ある学校づくり	SSH事業の推進	・KUMAKITAメソッドの整理  ・KISISF2024の拡充  ・探究型授業の推進	・次の3つの手順等を整理しまとめる。 ①KUMAKITA TS法 ②課題研究支援スキーム ③英語論文、ポスター作成 ・近隣校を招き参加校を増やす。 ・探究型授業に係る職員研修を行い、公開授業で実践する。	A	・近隣SSH校2校を招いて自校主催国際フォーラムを開催した。 ・「KUMAKITA資質・能力向上共創モデル」を提案して、文部科学省SSH中間評価で対象47校中上位7校に選出された。 ・職員研修ハンドブックと探究型授業実践集を公開した。
		理数科の魅力化	・課題研究や野外実習活動、校外研修等をとおして、豊かな科学的思考力や高度な専門性を身に付ける。 ・理数科の教育活動の広報に努め、志願者増を図る。	・天草研修や鹿児島研修などの校外研修を実施して科学的思考力を高める。 ・SSH設定科目、AR（アドバンストリサーチ）における探究活動の推進し、各種発表会に出品、応募する。 ・オープンスクールでの広報や学校HPの更新を積極的に行う。	A	・充実した校外研修を実施することができ、KSC主催の企業研修にも多くの生徒が参加した。 ・西日本理数科研究発表会で優秀賞受賞するなど、活動成果を上げた。 ・HPで日頃の活動を積極的に掲載することで広報活動に努めた。
		英語科の魅力化	・プレゼンテーションやディベートなど自己表現型学習の充実、英語運用能力の向上 ・課題研究を通じた情報収集力や論理的考察力の育成 ・英語科の魅力ある活動	・英語科およびSSH学校設定科目を通じて、プレゼンテーションやディベートの機会を増やす。 ・留学生の積極的な受け入れを行う。 ・英語科独自のカリキュラムを設定し、実践したことを積極的にHP等で発信する。	A	・「ディベートディスカッション」における通年を通じたディベートの実践をもとに外部コンテストへの参加者も増加した。 ・「グローバルリサーチ」における英語プレゼンテーションを複数回実施し、英語による自己表現力の向上に努めた。 ・全学年に留学生を受け入れ、来年度4

			の積極的な発信		月からの新規受入も内定するなど、積極的な受け入れができた。 ・SSH学校設定科目の3年間のカリキュラムを作成中で、実践内容もHPに随時掲載した。
	グローバルマインドの育成	・外部組織との国際交流を促進する。 ・海外進学や留学、海外旅行など海外に目を向ける生徒の増加を促す。	・昨年度交流実績のある熊本学園大学留学生との交流を年4回実施し、発展させる。 ・修学旅行で充実した研修を行うことや海外進学や留学に関する情報発信の場を増やす。	A	・1年生：熊本学園大学外国語学部との交流（4回）／2年生：熊本県立大学における授業参加（1回）、修学旅行における静宜大学訪問／全体：高雄市立林園高級中学来校、「世界津波の日」高校生サミットに英語科から1グループ、普通科から1グループが協議に参加。2年英語科が2日間ボランティアで参加 ・台湾静宜大学との指定校推薦の提携により推薦枠を利用した進学者1名、他の海外大学進学予定者が4名にのぼった。
開かれた学校づくり	地域・保護者との連携	・保護者や地域の方が参加しやすいよう行事見直しを進めながら、PTAや同窓会との連携、地域に根ざした活動を展開する。 ・様々な活動をととして地域及び保護者の本校教育活動への理解を深めていただく。	・育友会総会の出席率を増やすため、午前中のみ行事を計画する。 ・校地内の駐車できる空間を再確認し、見直しを図ることで保護者の駐車スペースを昨年度より多く確保する。 ・育友会総会・北陵祭での食品・物品バザーを始め、保護者が参加できる学校行事を実施する。 ・挨拶運動等育友会活動を通して地域、保護者の学校への理解と学校との連携を深める。 ・地域団体主催の行事へ積極的に参加する。	A	・育友会総会及び学級懇談、学年保護者会を午前中のみで実施し、保護者、職員共に好評であった。 ・駐車可能空間を計測し、図示したことにより以前より10台分多く駐車場を確保した。 ・学年別懇談会や、育友会総会・北陵祭での食品・物品バザー、保護者主催3年生激励会、進路研修会、健康保健講話など、保護者が参加する行事を実施できたが、経費の面から学年別懇談会の在り方は検討する必要がある。 ・始業時間間際の生徒の登校状態を保護者に見ていただくことで、さらなる家庭と学校の連携の必要性を感じてもらうことができた。 ・地域児童生徒健全育成連絡協議会主催の行事に本校ダンス部、吹奏楽部が参加した。

		情報発信・公開の充実	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校HPのさらなる充実を図る。</li> <li>・中学生、保護者、地域への積極的な情報発信を行う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・タイムリーな情報提供ができるように北高HPの運用方法を見直したり、更新頻度を高めたりする。</li> <li>・学校要覧、SNSなどの情報発信媒体を見直す。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・HPは、現状の更新を行いつつ、中学生、保護者、地域の方が必要な情報にアクセスしやすい構成に見直し年度末にリリース予定である。</li> <li>・学校要覧を、統一感があり、興味を引くデザインに改良した。</li> <li>・Instagram アカウントを開設し、発信力を向上させた。</li> </ul>
	業務改善 働き方改革	時間外業務従事時間の削減	<ul style="list-style-type: none"> <li>・昨年度比で時間外業務従事時間を削減する。</li> <li>・昨年度比で平均年休取得日数の増加（12.4日以上）</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デーの設定と実施を促す。</li> <li>・職員へ個別の過年度比較表とともに衛生委員会の報告を毎月配付する。</li> <li>・年休等の取得を促すため、学年・教科の連携を深め、年休等を取得するよう働きかけを行う。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ノー残業デーの設定は行ったが、徹底できなかった。</li> <li>・委員会の月報を作成し、全職員に周知した。職員の時間外業務従事時間を前年度平均より約1.8時間削減することができた。</li> <li>・取組の結果、今年度の年休取得日数は14.1日となり大きく増加した。</li> </ul>
		校内業務精選 ・職場環境の改善と職員の健康増進	<ul style="list-style-type: none"> <li>・業務プロセスの簡素化と効率化</li> <li>・施設設備の改善</li> <li>・職員の健康維持・管理</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・校内情報やファイルの管理ルールを見直す。</li> <li>・情報プラットフォームの構築及び運用を行う。</li> <li>・年5回安全点検を行い、安心安全な校内環境づくりに努める。</li> <li>・衛生委員会を毎月1回開き、職員の勤務、健康について話し合い、適切に対応する。</li> </ul>	A	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報共有のDX推進し、校内のファイル管理と情報共有を一元化するプラットフォームと運用方法を構築し、利便性を向上させた。また、情報の発信者と利用者双方にかかるコストを削減し、業務全体の効率化と簡素化を実現した。</li> <li>・安全点検を5回実施することができ、要望に応じて事務部と連携して環境改善することができた。</li> <li>・衛生委員会の毎月開催を実現し、職員の健康状況の適正管理に努めた。</li> </ul>
学力向上	授業力向上	授業改革（授業評価の活用）	年に2回授業評価アンケートを実施して職員へ授業改善を促す。	生徒による授業評価アンケートを実施する。集計結果を踏まえて、各授業の改善を図る。	A	生徒による授業評価アンケートを7月と12月に計2回実施できた。アンケートの結果も各職員へ提供し、授業改善を促すことができた。
		公開授業の推進	年2回公開授業週間（スキルアップ週間）を設定し、保護者や他校の先生など、多くの	6月と10月に公開授業週間を企画する。10月は学外へ参観を呼びかける。	A	公開授業週間を6月と11月の計2回設定できた。11月は保護者や県内の各高等学校にも呼びかけることができた。高等学校からは3校7

			方に参観していただく。			名の参観があった。保護者の参観数は算出できていないが、事後アンケートの回答が9名あり、概ね好評であった。
	主体的に学ぶ姿勢を育てる	生徒の主体的に学ぶ姿勢を育てる授業の実践（探究型授業の推進）	スキルアップ週間を利用してルーブリックを活用した探究型授業の実践を促す。	ルーブリックを再確認する職員研修を実施し、ルーブリックを活用した探究型授業をスキルアップ週間で行う。	A	公開授業週間（スキルアップ週間）に合わせ、ルーブリックを活用した探究型授業の実践を、計2回促すことができた。複数の教員が実践し、事後アンケートによる生徒の回答も好印象であった。
		観点別評価の研究・改善	学期末ごとにルールに沿った観点別評価を実施・点検し、良い取組は教科を越えて共有する。	各教科会で観点別評価の規準を検討し、意識した評価に繋げる。また、教務部で係を設定し、点検と改善を行う。	B	教務部の係で学期末ごとに観点別評価を点検し、ミスのない評価を実践できた。通知票で生徒に評価を還元し、指導と評価の一体化を学校としても取り組めた。しかし、教科を超えての評価方法の共有は学校全体として取り組めなかった。
キャリア教育（進路指導）	生徒の進路目標達成	個に応じた進路指導並びに教科指導の実践	きめ細やかで正確な情報提供と到達度に応じた教科指導、個々の進路に応じた個別指導の充実を推進する。	・学年別の進路ガイダンスの実施および「北陵羅針盤」等を活用した計画的な進路学習を実施する。 ・Classi等でその時々に応じた情報を的確に発信する。 ・多様な入試形式に応じた教科・小論文等の個別指導の充実を図る。	A	・各学年で進路講話を実施し、保護者を対象として進路講演会および動画配信を行った。 ・Classiを用いた模試前自学課題の配信および各大学イベント案内等の情報を随時発信した。 ・3年生の小論文、面接指導に全職員を割り当て、きめ細やかな個別指導を行った。
	進路選択に対する意識の高揚	・学校教育全般におけるキャリア教育的視点による指導の充実	・生徒の発達段階に応じた進路関係行事の充実と教育活動全般におけるキャリア教育の実践を図る。 ・学校内外での諸活動・実績等のポートフォリオ作成指導を推進する。	・職業別講演会やインターンシップなど、進路意識向上に向けた行事の充実を図る。 ・大学・学部・学科研究を通して具体的な進路選択に係る情報収集の方法を指導する。 ・学校行事等のポートフォリオ作成指導を経て個々の主体的な記録・蓄積を促し、自らの在り方・生き方について考えを深めさせる。	B	・職業別講演会を7月に実施して早期から職業研究や文理選択に取り組むきっかけとし、インターンシップやオープンキャンパス参加を促した。 ・各学年に応じた進路学習の時間を確保して情報収集および志望理由書作成を行った。 ・学校行事後、その都度振り返り課題として配信し、ポートフォリオの自主的な活用推進に繋げた。
生徒指導	交通安全教育の充実 健全な心の育成	自転車運転意識・マナーの向上推進	・保護者、地域、諸機関、警察と連携した取組を	・地域、自動車学校、警察などと連携し交通安全教室等を実施する。 ・ヘルメット着用の啓	B	・地域・警察と連携しながら現状にあった登校指導や現地指導、生徒への啓発活

			<p>実施し、指導の充実を図る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・交通委員会の活動の活性化を図る。</li> <li>・自転車による交通事故防止、事故数の減少</li> </ul>	<p>発を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・北辰週間で登校指導（あいさつ運動）を計画的に行い交通安全の徹底を図る。</li> </ul>		<p>動が行えた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ヘルメット着用に向けた取組を進め、自転車通学許可条件化に向けて整備できた。</li> <li>・北辰週間のあいさつ運動は近年では最もよい状況であり、事故件数も昨年度比で減少したが、さらに交通マナーの意識向上や事故防止に努める必要がある。</li> </ul>
		社会性や対人関係能力の向上	<p>基本的な生活習慣の確立、身だしなみ、あいさつ等のマナー向上を図る。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会を中心に主体的なマナー向上の呼びかけを実施する。</li> <li>・リーダー研修で生徒の自発的活動を推進する協議を行う。</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒会生活委員会を中心に校則見直しや制服検討委員会、北辰週間などで主体的な提案や生徒への呼びかけなどが行われた。</li> <li>・リーダー研修年2回実施でし、生徒会や部活動キャプテンなどリーダーとしての資質向上に取り組んだ。</li> </ul>
人権教育の推進	<p>推進の体制と研修の充実</p> <p>人権意識を高めるための教育の充実</p>	<p>人権教育の課題の共有化と人権教育推進協力体制の充実</p>	<p>年間3回の全職員に対する人権教育校内研修会を実施する。その中で、すべての学校生活において、人権教育が有機的に積極的に推進されるように働きかける。</p>	<p>部落差別（同和問題）をはじめとする様々な人権問題に関する動画やスライドを用いた職員研修会において研究協議を実施することで職員の意識の向上を図る。</p>	B	<p>6月に「部落差別事象の再発防止に関する研修資料」（差別事象への対応）について研修を実施した。11月に事例研究と「人権教育の指導方法等の在り方について」（第三次とりまとめ）の研修を実施した。2月は「性指向・性自認に関する人権」について研修を実施する。</p>
		<p>人権意識を高めるための教育及び他者への思いやりの心を育む教育の充実</p> <p>教育の根幹に人権教育を据え生徒にしっかりと寄り添い、一人一人を大切にした教育の推進</p>	<p>生徒一人ひとりに対して、部落差別（同和問題）をはじめとした様々な差別解消に関する取組の実践力を高め、態度に表すことができる豊かな人権感覚を教育の充実を図る。</p>	<p>「人権意識の涵養」を目指し、人権教育特設LHRを年3回実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・教育相談部との連携を深めて情報と課題の共有を図る。</li> </ul>	A	<p>人権教育に関するLHRを1・2学年は3回、3学年は2回実施した。</p> <p>指導案やそれに伴う関連スライド・資料の見直し、視聴ビデオや動画の視聴方法変更等、各学年とも生徒の人権意識をより高める工夫をして取り組んだ。このことは、授業後の生徒の感想からも認められた。</p>
いじめの防止等	<p>命を大切にすることを育む指導</p> <p>いじめを生まない人間関係づくり</p>	<p>自己肯定感を高める人権教育活動の体系化を図る。</p>	<p>生徒一人ひとりが互いの存在を認め合うことができる自尊感情の高揚に資する人権教育の</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・命を大切にする心を育む指導の在り方の研究を深める協議を行う。</li> <li>・人権作文の熟読および人権標語の作成によって生徒の人権感覚・言語感覚の深化を図</li> </ul>	B	<ul style="list-style-type: none"> <li>・全学年2学期の人権教育LHR後に人権標語作成に取り組んだ。このことで、人権に関する言語感覚が高まり、個々の人権意識の高揚に繋がった。</li> </ul>

			充実を図る。そのための言語環境を含む学習環境の整備を推進する。	る。		・人権作文の熟読については、時間設定に課題が残った。
		安心して学校生活を送ることができる環境づくり	生徒間のコミュニケーション能力を高め、「いじめ」や「からかい」等をさせない集団をつくる。	・心身の変化を見逃すことなく家庭訪問や面談を実施し、迅速に対処する。その後も積極的に個人面談等を行う。 ・いじめに迅速に対処するための職員研修を行う。	B	・担任による面談期間を年2回設けることにより生活や友人関係等の身近な変化の発見に繋がっている。 ・教育相談部と連携し、生徒理解研修を実施した。
	いじめを許さない学校の雰囲気づくり	自己理解と自尊心の構築	生徒間でお互いを尊重し、認め合う雰囲気や環境をいじめ防止の観点に立って構築する。	・担任や教科担当者等が日ごろからクラスの雰囲気づくりや周囲への配慮について話をする。 ・生徒会主催の「北辰週間」でのアンケートや職員研修等でクラスの状況や生徒の様子等についての情報共有を行う。	A	・体育大会や北陵祭、クラスマッチ等の学校行事等をとおして、前年度以上にクラスの親睦を深める場面や互いに認め尊重し合う場面も多く、成果があった。 ・北辰週間では、生徒委員会の取組や放送による呼びかけなど自主活動が増えた。
		いじめの早期発見と事案に対する迅速かつ適切な対応	・日頃から生徒情報を正確に把握し、些細なことに対しても情報提供・交換を迅速に行い、いじめを早期に発見する。 ・事案が発生した場合は迅速かつ適切な対応を行い、再発を防止する。	・全職員が生徒の日々の様子をしっかりと観察する。 ・職員間の情報交換会やSCを通じて生徒情報を常に更新して適切に対応する。 ・心のアンケートを年に3回実施し、いじめの実態を迅速に把握する。 ・いじめ事案に対しては学校いじめ防止基本方針に基づき、迅速かつ的確に対応する。	A	・毎学期のアンケート導入が定着し生徒の実態やクラスの状況把握ができている。(7月、12月、2月予定)また、担任、学年等の関係部署と連携を図り、早期対応や面談、保護者に対する説明等も行っている。 ・いじめ対策防止委員会ではSCと連携を取りながら適切に対応することができた。
地域連携(コミュニティ・スクールなど)	地域と一体となった災害時の連携体制の構築 防災意識の高揚	近隣地域や各関係機関との連携体制(学校運営協議会開催)	・災害時に必要な装備品および備蓄食糧の確保 ・地域との連携強化	・防災倉庫の装備品と備蓄食糧の確認、期限切れ食品等の廃棄と補充を行う。 ・学校運営協議会等で地域の方々と防災に関する情報を共有する。	B	・装備品と備蓄食糧の確認は行ったが、期限切れ食品等の廃棄と補充はしていない。 ・岩倉台自治会及び北区役所保護課担当者と防災備蓄倉庫の設置、防災電話の設置について情報を共有した。
		災害に対して主体的に考え行動できる生徒の育成	・実効性の高い防災避難訓練の計画・実施 ・主体的に災害へ対処で	・各関係機関と連携して、効果的な内容となるように関係職員とともに計画・実施する。 ・県の防災ハンドブックの周知を図る。	A	・より実効性を高めるために、点呼を授業担当者が行う実施内容のブラインドを実施するなど検討事項を確認できた。また、救助袋の設置講習を行ったが、有意

			きる意識の啓発			義だったと意見があった。
健康教育	健康で安全な生活を送る意識の醸成	生徒自ら心身の健康について意識を持つ（虫歯の治療率アップなど）	生徒の心身の成長段階に合わせた適切な講演会を実施する。	性教育講演会・薬物乱用防止教育講演会（全生徒・職員）を実施する。	A	性教育講演会では「慈恵病院」の看護部長の先生から命の大切さと尊重する心を学び、薬物乱用防止教育講演会では、第一薬科大学の先生から薬物乱用の恐ろしさや市販薬の取り扱いについて学ぶことができた。
		健康を維持するための情報提供（ほけんだより、文化祭発表など）	広報活動を通して健康増進を啓発する。	保健委員および保健室からの「KUMAKITA HEALTH」（保健だより）等を通して、タイムリーな情報提供を行う。	A	「KUMAKITA HEALTH」（保健だより）において、生徒、職員ならびに保護者に対して健康教育の情報を豊富な話題とともに提供することができた。
	良質な教育環境の維持と環境教育の充実	教育環境及び施設に係る事故防止	・危険箇所を早期発見し、早期改善を行う。	・全職員による年3回の安全点検を実施する。 ・環境美化部を中心に感染症対策等の環境整備を行う。	A	・今年度も計画的に安全点検を実施し、危険箇所の確認や修繕等を行うことができた。しかし現状の施設に限界があることや、清潔な環境を保つことが難しく課題となった。 ・3学期には委員会活動として「年度末に向けてのよりよい環境を目指して」をテーマに生徒が主体的にキャンペーンを実施した。感染症予防に関しては、特に換気の徹底を呼びかけるよう努めた。
		学習に適する教室等の整理整頓	・教室内の美化、整理整頓及びゴミの分別の徹底。	・美化コンクールを年2回実施する。 ・美化委員会、ECO委員会の活動を通じて、環境の充実・ECOの推進に努める。	B	・美化コンクールは計画通りに実施でき、生徒達の美化意識の向上を目指したが、掃除が実施できない日も多く定着には至らなかった。 ・ECO委員会の活動では、プラスチックごみの収集の一環として、今年もコンタクトレンズケースの回収を行い、ごみの分別に対する意識高揚に繋がった。
特別支援教育	特別支援教育の推進	特別な支援を必要とする生徒の理解と支援	・特別支援教育に関する知識と理解を深めるとともに、具体	・「生徒理解」「教育相談」「校内支援体制」の観点から教職員に向けた校内研修を実施する。	A	4月に「生徒理解」9月に「SC講話」の職員研修を企画・実施し、校内の支援体制を整えた。

			的支援方法等を学ぶ機会を設定する。	・教育相談関連の月刊誌の特集について毎月職員に紹介して周知する。		職員のニーズに応じた話題や情報を定期的に提供することができた。
		具体的支援方法の検討と提供	・個々の生徒の特性に合った支援方法を検討し、効果的な支援および合理的配慮を提供する。	・定例ケース会議を3回以上開催し、支援・指導計画を職員に周知する。また、成果と課題を次年度へと引き継ぐ。	A	5月にシートを作成して、1月と2月に評価のためのケース会議を開催した。SCの助言を頂きながら、管理職や担任・保健室・教育相談部で情報を共有し、支援に活かすことができた。大学への引き継ぎ等も確実に行う。

#### 4 学校関係者評価

探究型授業の目標の立て方や、生徒による授業評価アンケートを教員に返す取組など評価できる。情報発信について他校同窓会との合同研修会（勉強会）によると現代の人々はスマホのサイズ感で物事を感じるとのこと。北辰会も北高の情報発信をこのことや頻度に留意して情報発信したい。学校の情報発信も参考にしたらどうか。

先生方が生徒に身につけさせたい力にあがっていた「主体性」や「考える力」は企業でも大切にしている。今後も様々な活動から生徒の力を伸ばしてほしい。高校での生活が人格形成に大きく影響すると思うので大事にしてほしい。学校評価の結果から教職員のエンゲージメントが高まっている様子が見られて大変好ましい。

小・中学生も高校生の姿からその学校に対するイメージを持つ。高校生の小・中学校への参加は大変刺激になる。

大学に行っても、社会人になっても留学の経験は本当に役に立つ。留学の仕組みをもっと整えて欲しい。また、夜遅く帰宅する生徒がいるのが心配。把握はむずかしいと思うが、周りの街灯が少ないこともあり気になっている。

#### 5 総合評価

評価項目（小項目：全30項目）の評価はA:20項目、B:10項目という結果であった。昨年度の評価（A:9項目）と比較しても大幅に自己評価が向上している。本年度の重点項目に沿って、計画を見直して目標を設定し、年間を通じて意識して取り組んだことが評価につながっていると考える。取組実績や生徒の変容を意識して評価したので、課題が残るものについてはB評価となった。

別途実施した学校評価アンケートでは、生徒の回答において、いずれの項目でも肯定的な回答が多い。特に「5北陵祭」「11学校環境・施設」「12進路情報」「13保護者とのコミュニケーション」「15生徒会活動」の項目で昨年度よりも肯定する回答が増加している。要因としては、①エレベータ、トイレの改修工事が進んだこと②生徒会活動の自治活性化 ③Classi活用による進路情報提供などが考えられる。課題としては、「2わかりやすい授業」「18意欲的な学習への取組」「20入学して良かった」の項目については停滞しており、「探究型授業」のさらなる推進とともに主体的な学びを促すカリキュラムの改善などを通して生徒の充実感を高めていく必要がある。

保護者の回答においては、「1魅力ある学校づくり」と「2生徒保護者の信頼」「4学校行事」「7わかりやすい授業」「11学校環境・施設」「13保護者とのコミュニケーション」「15生徒会・部活動」「16入学させてよかった」の項目で「①そう思う」が増加している。要因は生徒と同様に①エレベータ・トイレ改修②職員による丁寧なコミュニケーション③ホームページ、すぐる、Classiなどによる情報発信の改善が考えられる。一方、「17中学校に向けて魅力あるPRができています」という項目を今年度から質問したが「①そう思う」が17.0%と思いのほか低かった。中学校に対する魅力ある広報戦略を考える必要がある。

今年度は、職員アンケートの結果も学校運営や生徒自治の項目で好転しており、生徒、保護者のアンケート結果と照らし合わせると、学校に対する愛着や肯定感が醸成され、生徒・保護者・職員が互いに貢献しあう良好な関係になりつつあると感じている。

#### 6 次年度への課題・改善方策

##### （1）更なる授業改善の推進

1人1台端末の活用がさらに進み、探究型授業の取組も定着しつつある。一方で生徒の学びの自走化や学力保証においては課題があり、さらに職員の授業の充実が求められ



る。日々の実践が学力に結びつくような教師の授業研究が必要である。

(2) 探究活動の深化とキャリア教育の連携による進路指導体制の充実

校内のポートフォリオ作成が進んでいる。また、SSH事業として、アントレプレナーシップ教育や課題研究で国内外の大学、企業、公的機関と連携し、数々の成果をあげてきた。今後さらに課題研究とキャリア意識とが結びつく仕掛けを構築し、生徒自身があり方・生き方を真剣に考える資質能力を育みたい。

(3) 各科の魅力創造と発信力強化

普通科、理数科、英語科のそれぞれの魅力を際立たせ、さらに本校ならではの3科融合的な取組を加速させたい。また、中学生、地域に向けて本校の取組をより知ってもらうためホームページ等の改善を図り、情報発信を強化したい。

(4) 働き方改革の推進

教育課程において単位数を減らした他、業務の統合と平準化、ノー残業デーの設定、年休の取得推進など多くの取組を実施してきた。それらの効果で平日の時間外勤務縮減は着実に進みつつあるが、部活動の従事時間に課題が残る。今後は、さらなる取組の他に部活動運営方針を見直す必要がある。